

2022年3月期
決算説明会

2022年5月27日
三櫻工業株式会社
(証券コード：6584 東証プライム)

2022年3月期 決算の概要

取締役CFO 佐々木 宗俊

2022年3月期 期末 連結損益状況



	2021年3月期 実績		2022年3月期 実績				2022年3月期 通期予想 (2/10公表)	
	金額 (百万円)	売上高比 (%)	金額 (百万円)	売上高比 (%)	対前期比		金額 (百万円)	達成率 (%)
					増減額 (百万円)	増減率 (%)		
売上高	113,657	100.0	115,940	100.0	+2,283	+ 2.0	115,000	100.8
営業利益	3,486	3.1	2,183	1.9	▲1,304	▲ 37.4	3,100	70.4
経常利益	3,766	3.3	2,584	2.2	▲1,182	▲ 31.4	3,400	76.0
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,630	3.2	1,009	0.9	▲2,622	▲ 72.2	2,400	42.0

● 2022年3月期 期末業績概要 (対前期比)

- ▶ 売上高：前年同期の新型コロナウイルス感染症の影響からは回復するも、半導体不足による生産減の影響が継続した結果、前年同期とほぼ同水準。
- ▶ 営業利益：サプライチェーンの混乱に伴う運送費の高騰や原材料価格の高騰に加え、米国を中心とする人件費高騰による固定費の増加により▲1,304減益。
- ▶ 経常利益：主として営業利益の減少により▲1,182減益。
- ▶ 純利益：経常利益の減少及び繰延税金資産取崩等により前期比で▲2,622減益。

● 為替レート

損益換算レート (単位：円)	2021年3月期 平均レート	2022年3月期 平均レート	変動率
ドル	106.8	109.8	+3%
ユーロ	121.8	129.9	+7%
メキシコペソ	5.0	5.4	+8%
人民元	15.5	17.0	+10%
インドルピー	1.4	1.5	+6%
タイバーツ	3.4	3.4	+1%
ロシアルーブル	1.5	1.5	-
ブラジルリアル	21.0	20.4	▲3%

2022年3月期 期末 セグメント別実績

	売上高			営業利益		
	2021年3月期	2022年3月期	対前期比 増減	2021年3月期	2022年3月期	対前期比 増減
	実績 (百万円)	実績 (百万円)	実績 (百万円)	実績 (百万円)	実績 (百万円)	実績 (百万円)
日本	44,202	42,201	▲2,000	364	1,230	+867
北南米	31,621	31,683	+62	251	▲1,729	▲1,979
欧州	20,533	20,973	+440	772	25	▲748
中国	20,419	20,146	▲273	1,460	1,499	+39
アジア	15,480	19,940	+4,460	740	1,851	+1,111
連結調整	▲18,598	▲19,004	▲406	▲100	▲694	▲593
合計	113,657	115,940	+2,283	3,486	2,183	▲1,304

● 2022年3月期 地域別業績のトピックス (対前期比)

- 日本【減収・増益】 半導体・樹脂材料などの供給問題を起因とする生産減の影響を受け売上高は減収。材料価格及び電力費等の生産費高騰の影響を受けるも前期からの固定費抑制の継続効果が減収影響を補ったことで利益は改善。
- 北南米【増収・営業赤字】半導体不足やサプライチェーン全体の混乱による生産減が影響し、現地通貨ベースでは減収となったが、為替換算の影響により売上高は増収。物流網の混乱、輸送費の高騰、材料費を含むインフレ、人手不足を背景とする人件費の上昇等により営業損失。
- 欧州【増収・減益】 半導体不足等に起因する生産台数の減少影響により、現地通貨ベースでは減収となったが、為替換算の影響により売上高は増収。自動車メーカーの突発的な生産調整及び原材料価格の高騰の影響を受け減益。
- 中国【減収・増益】 新型コロナウイルス感染拡大の影響から回復するも、半導体等部品供給問題による生産減の影響を受け、前年水準の売上。継続したコスト削減効果が寄与し増益。
- アジア【増収・増益】 新型コロナウイルス感染拡大の影響、半導体供給不足を起因とする取引先の生産台数減影響を受けるも、前年に生じた大幅減産から回復し売上高は増収。人件費等の固定費削減活動の継続効果により利益は大幅に回復。

2022年3月期 期末 営業外及び特別損益等



(増減額の符号は対利益符号)

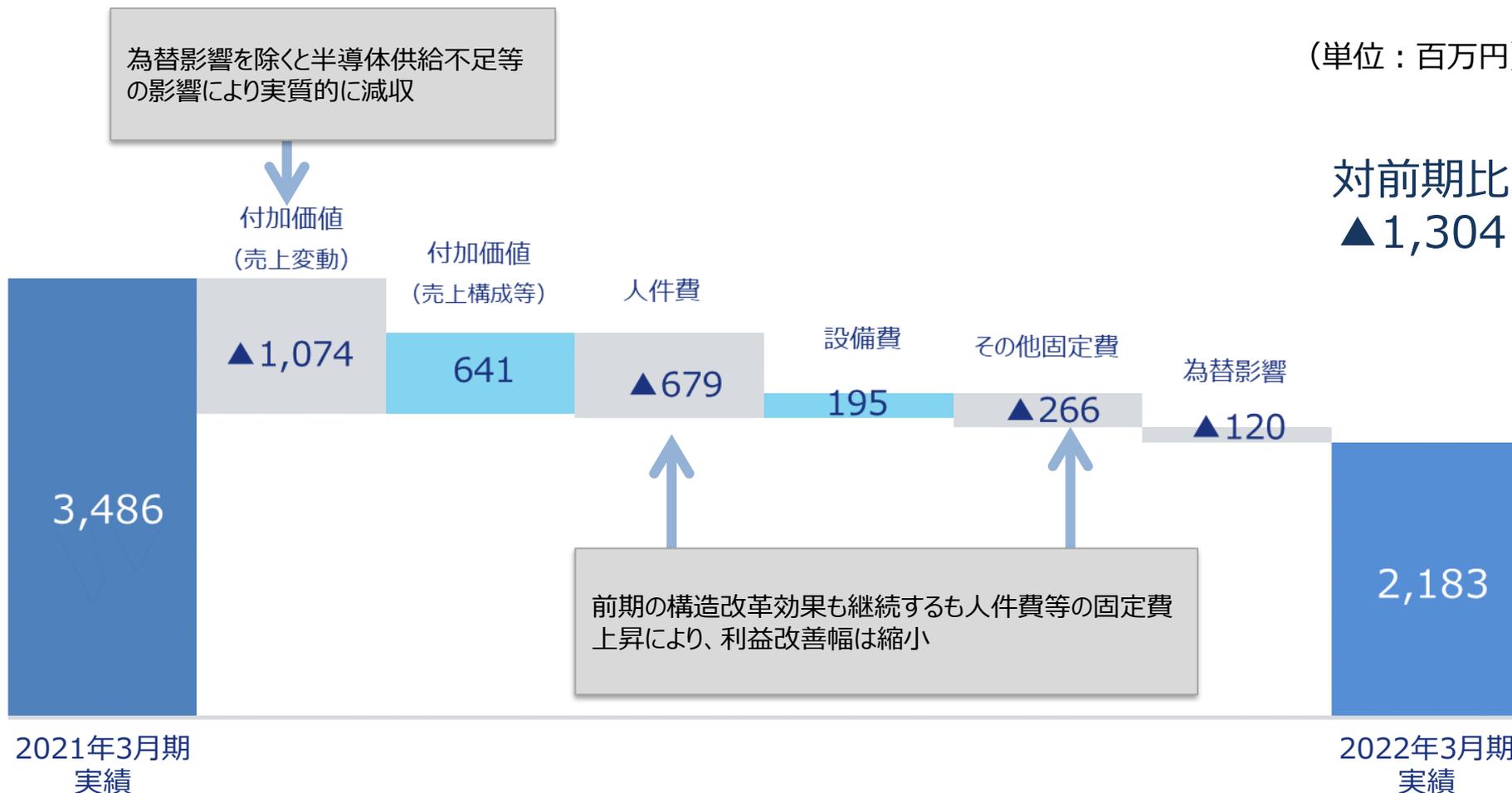
連 結		2021年3月期 実績	2022年3月期 実績		主な増減要因 (金額は百万円)		
			金額 (百万円)	金額 (百万円)		対前期比	
						増減額 (百万円)	増減率 (%)
営業利益		3,486	2,183	▲ 1,304	▲ 37.4		
営業外 損益	営業外収益	1,251	1,078	▲ 174		助成金 ▲544 為替差益の増加 +458 受取利息 ▲21	
	営業外費用	972	676	+ 296		為替差損の減少 +247	
経常利益		3,766	2,584	▲ 1,182	▲ 31.4		
特別利益		2,106	843	▲ 1,263		投資有価証券売却益 ▲1,194 受取保険金 ▲757 製品保証引当金戻入 +709	
特別損失		196	235	▲ 39		投資有価証券評価損 ▲38	
税引前当期純利益		5,675	3,191	▲ 2,484	▲ 43.8		
法人税等		1,743	1,635	+ 108			
非支配株主利益		302	548	▲ 246			
親会社株主に帰属する 当期純利益		3,630	1,009	▲ 2,622	▲ 72.2		

2022年3月期 期末 営業利益分析

前期の構造改革効果は継続するも、半導体供給不足による顧客の生産減の影響に加え、材料費高騰及び人件費上昇等のインフレ影響もあり利益縮小。

(単位：百万円)

対前期比
▲1,304



為替影響を除くと半導体供給不足等の影響により実質的に減収

付加価値
(売上変動)

付加価値
(売上構成等)

人件費

設備費

その他固定費

為替影響

3,486

▲1,074

641

▲679

195

▲266

▲120

2,183

前期の構造改革効果も継続するも人件費等の固定費上昇により、利益改善幅は縮小

2021年3月期
実績

2022年3月期
実績

注：付加価値（売上変動）＝連結全体の売上増（為替補正後）×前期付加価値率（為替補正後）

2022年3月期 期末 連結財務状況：対前期末

連 結		2021年3月期末		2022年3月期			
		実績 (百万円)	構成比 (%)	金 額 (百万円)	構成比 (%)	対前期末増減額 (百万円)	主な増減要因 (百万円)
資 産	流動資産	50,735	58.4	53,485	55.5	+ 2,750	総資産： +9,577 増加 ① 現預金 ▲1,013 ② 営業債権 ▲999 ③ 棚卸資産 +4,615 ④ 機械装置及び運搬具等の有形固定資産 +1,418 ⑤ その他投資有価証券 +4,980 (時価評価額の増加) ⑥ 繰延税金資産 +262
	固定資産	36,125	41.6	42,952	44.5	+ 6,827	
	資産合計	86,860	100.0	96,437	100.0	+ 9,577	
負 債	流動負債	33,929	39.1	36,863	38.2	+ 2,934	負債総額： +3,373 増加 ⑦ 営業債務 +1,067 ⑧ 短期借入金 +3,725 ⑨ 未払金 ▲1,007
	固定負債	17,452	20.1	17,891	18.6	+ 439	
	負債合計	51,381	59.2	54,754	56.8	+ 3,373	
純資産合計		35,478	40.8	41,682	43.2	+ 6,204	純資産： +6,204 増加 ⑩ 有価証券評価差額金 +3,490 ⑪ 為替換算調整 +2,067 (ドルやユーロ等の主要通貨の円安影響) ⑫ 利益剰余金 +117 ⑬ 非支配株主持分増加 +277 ⑭ 退職給付に係る調整 +249
負債純資産合計		86,860	100.0	96,437	100.0	+ 9,577	

(注1) D/E レシオ・・・前期末 0.8 → 当期末 0.74

(注2) 自己資本比率・・・前期末 37.7 → 当期末 40.1

	前期末	当期末
①有利子負債	26,016	28,677
②自己資本	32,716	38,643
①/②	0.80	0.74

2022年3月期 期末 連結キャッシュ・フローの状況

● 2022年3月期 連結キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)



* 現金及び現金同等物に係る換算差額 (+486百万円) を財務活動に含めております。

● 設備投資/減価償却の状況

(単位：百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	
		実績	対前年同期
設備投資額	3,452	5,568	+2,115
減価償却費	5,340	5,245	▲95

2023年3月期 通期業績予想



連結	2022年3月期 実績		2023年3月期 業績予想	
	通期 (百万円)	通期 (百万円)	対前期	
			増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	115,940	128,000	+12,060	+10.4%
営業利益 【営業利益率】	2,183 +1.9%	2,500 +2.0%	+317	+14.5%
経常利益 【経常利益率】	2,584 +2.2%	2,400 +1.9%	▲184	▲7.1%
当期純利益 【当期純利益率】	1,009 +0.9%	1,000 +0.8%	▲9	▲0.9%
一株あたり純利益 (円)	27.91	27.68	▲0.23	▲0.8%
配当 (円)	25.0	25.0	—	—

*親会社株主に帰属する当期純利益

● 2023年3月期業績予想の想定レート

連結	2022年3月期 実績		2023年3月期 業績予想	
	通期レート (円)	通期レート (円)	対前期	
			増減額 (円)	増減率 (%)
米ドル	109.8	115.0	5.2	+4.7%
ユーロ	129.9	130.0	0.1	+0.1%

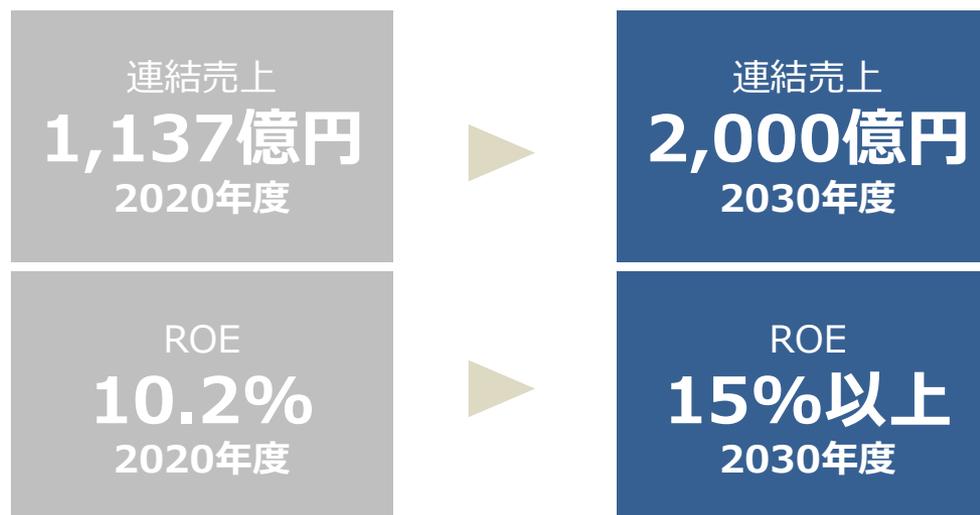
中期経営方針の 取り組み

取締役社長 竹田 玄哉

アフター・コロナの世界において、平均年率6%の成長を目指します

中期方針3本の柱	▶ 存続する自動車市場において、圧倒的な高収益・高品質基盤を確立する	既存事業
	▶ サーマル・マネジメントのソリューションにおいて世界のトップ・プレーヤーとなり、環境負荷低減に貢献する	サーマル・ソリューション事業
	▶ 自動車事業にとらわれない新事業を創出する 地域経済に貢献する新たな事業を創出する	次世代コア事業

定量目標



DXにより、既存事業の収益率と品質保証レベルを更に高度なものに

中期方針3本の柱

▶ 存続する自動車市場において、圧倒的な高収益・高品質基盤を確立する

▶ サーマル・マネジメントのソリューションにおいて世界のトップ・プレーヤーとなり、環境負荷低減に貢献する

▶ 自動車事業にとらわれない新事業を創出する
地域経済に貢献する新たな事業を創出する

既存事業

サーマル・ソリューション事業

次世代コア事業



既存事業売上

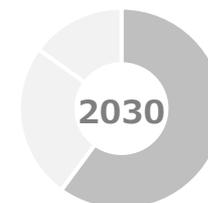
1,200億円

2030年度

既存事業営業利益率

10%以上

2030年度



I・II 既存事業

最適な熱輸送設計と品質保証力により、環境負荷を低減する

中期方針3本の柱

▶ 存続する自動車市場において、圧倒的な高収益・高品質基盤を確立する

▶ サーマル・マネジメントのソリューションにおいて世界のトップ・プレイヤーとなり、環境負荷低減に貢献する

▶ 自動車事業にとらわれない新事業を創出する
地域経済に貢献する新たな事業を創出する

既存事業

サーマル・ソリューション事業

次世代コア事業



「富岳」採用製品



「b24X」採用製品

サーマル・ソリューション事業売上

500億円

2030年度

EV, PHEV, HEV製品売上目標

250億円

HPC冷却製品売上目標

250億円



III サーマル・ソリューション事業

テクノロジーで社会の課題を解決する

中期方針3本の柱

▶ 存続する自動車市場において、圧倒的な高収益・高品質基盤を確立する

既存事業

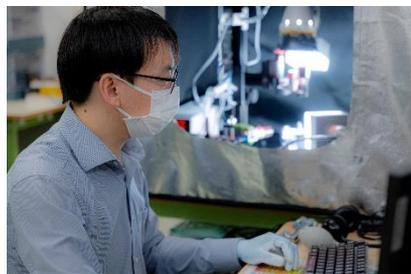
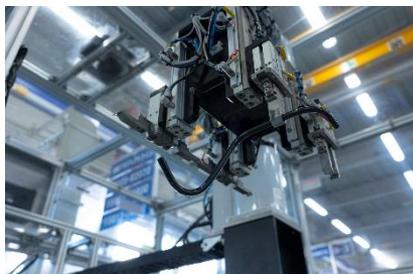
▶ サーマル・マネジメントのソリューションにおいて世界のトップ・プレイヤーとなり、環境負荷低減に貢献する

サーマル・ソリューション事業

▶ 自動車事業にとらわれない新事業を創出する
▶ 地域経済に貢献する新たな事業を創出する

次世代コア事業

生産ソリューション事業



研究開発とCVC



2021.7 GaN基板加工サービス開始

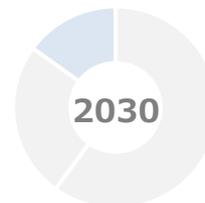


2022.3 プラグ社に出資

次世代コア事業売上

300億円

2030年度



IV 次世代コア事業

会社概要

2022年5月

会社の概況 (2022年3月31日現在)

商 号	三桜工業株式会社(登記社名:三桜工業株式会社)
英 文 商 号	Sanoh Industrial Co., Ltd.
設 立 年 月 日	1939年3月24日
資 本 金	34億8,110万円
従 業 員 数 (連 結)	8,132名
主 要 製 品	ブレーキチューブ、フューエルチューブ、フューエルインジェクションレール、スチールチューブ製品および樹脂チューブ製品、クイックコネクター、シートベルト用バックル、ショルダーアジャスター、設備等

役員 (2022年6月22日予定)

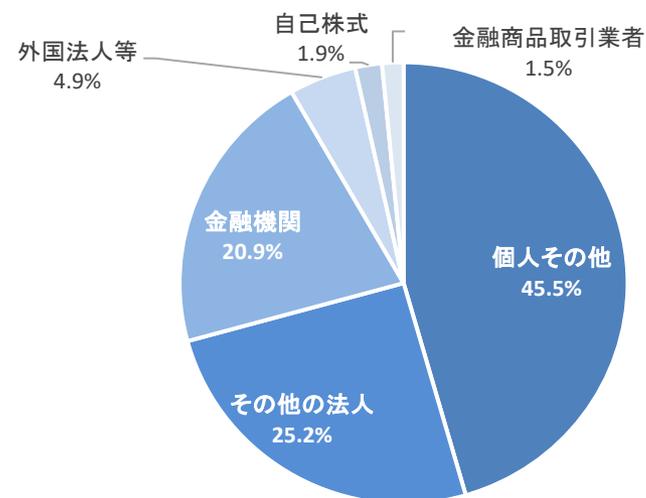
取締役会長	竹田 陽 三	取締役(社外)	入 山 章 栄
取締役社長	竹田 玄 哉	取締役(社外)	井 澤 吉 幸
取 締 役	佐々木宗俊	常勤監査役	三 輪 は る か
取締役(社外)	森 地 高 文	監査役(社外)	春 名 孝 昭
取締役(社外)	浪 江 一 公	監査役(社外)	平 石 智 紀
取締役(社外)	金 子 素 久		

株式の状況 (2022年3月31日現在)

発行可能株式総数 144,848,000株
 発行済株式の総数 37,112,000株
 株主数 18,279名

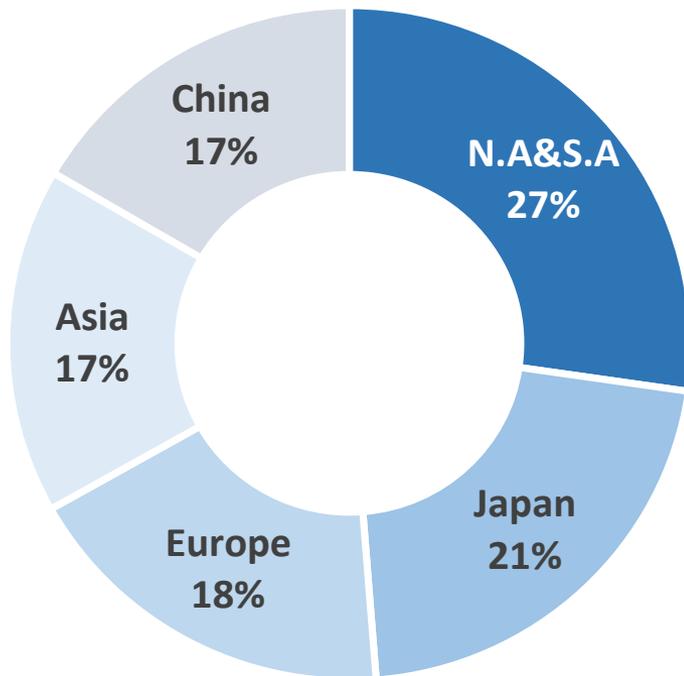
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,437	9.44
神鋼商事株式会社	2,212	6.08
本田技研工業株式会社	2,000	5.50
スズキ株式会社	1,600	4.40
有限会社竹田コーポレーション	1,500	4.12
株式会社三菱UFJ銀行	1,419	3.90
株式会社常陽銀行	1,243	3.42
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	910	2.50
アルコニックス株式会社	780	2.14
個人株主	514	1.41

所有者別の株式保有比率 (2022年3月31日現在)

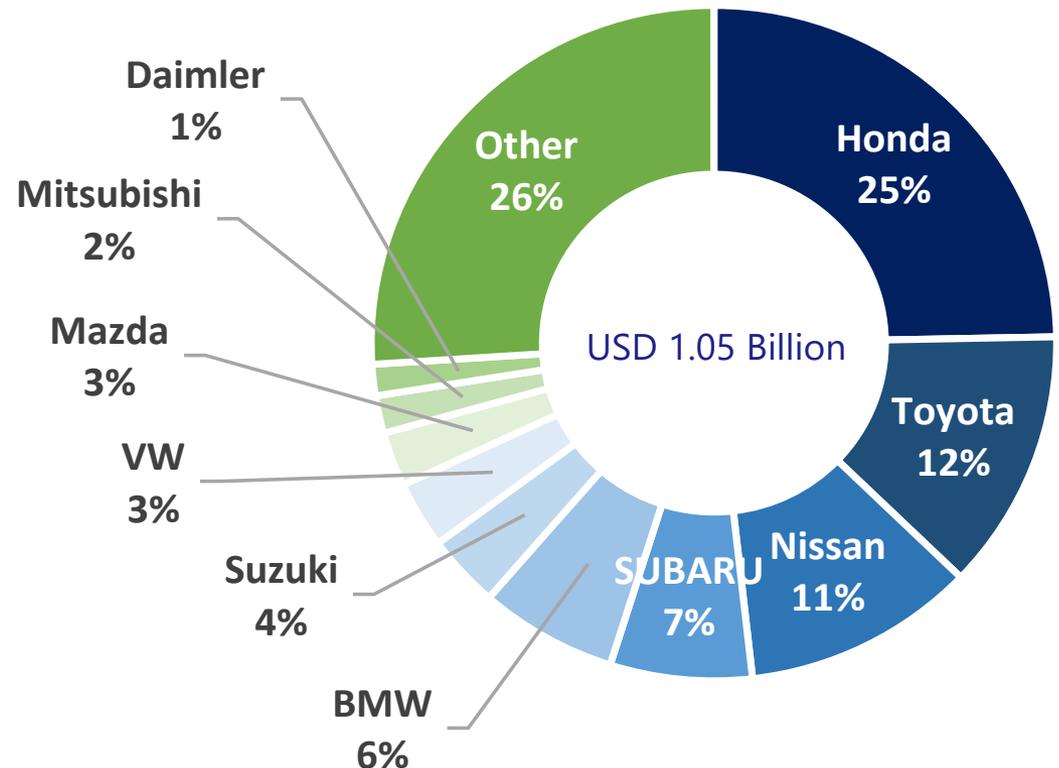


当社は特定のOEMの資本系列に属さない独立系サプライヤーとして、地域・顧客いずれも偏りなく横断的に事業を展開しています。

Region

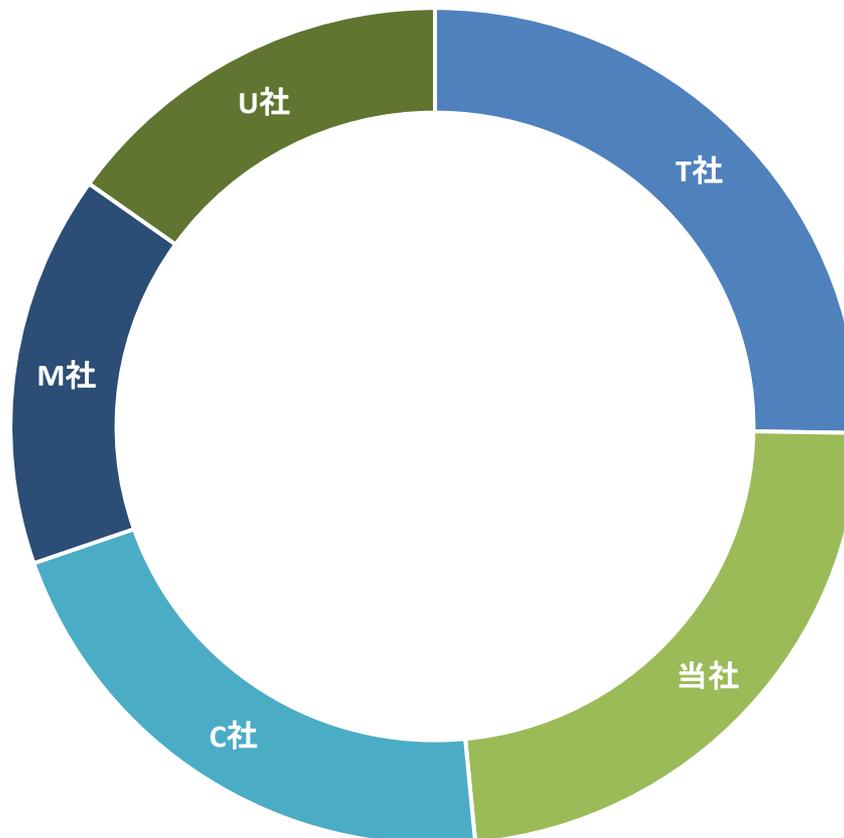


OEM/Tier1



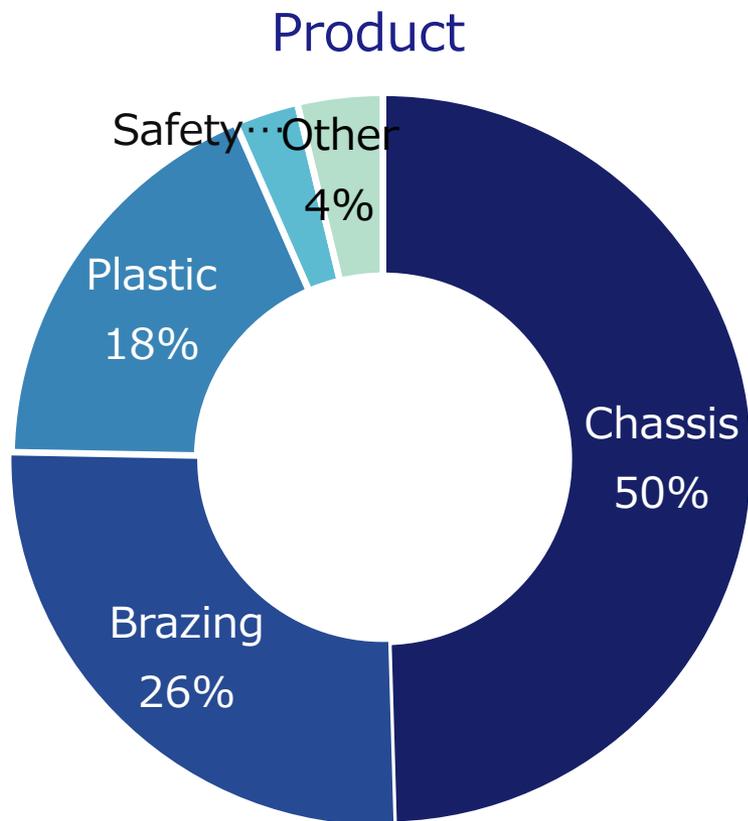
注：2022年3月期末時点。為替レートは2022年3月期期中平均レート109.8円/USD。N.AはNorth America、S.AはSouth America、VWはVolkswagen

当社が属する車輻配管市場はグローバルベースで競合先数が限定的な寡占市場であり、中でも当社は高い市場占有率を獲得しています。



注：当社推定

当社の主要製品はChassisと呼ばれる車両配管をはじめとする配管製品が大半を占め、その素材は金属から樹脂まで幅広く取り扱っており、異なる素材を加工し接合する異材接合技術を強みとしています。



ダブル
スチールチューブ



シングル
スチールチューブ



PAコート
チューブ



PCコート
チューブ



単層樹脂チューブ



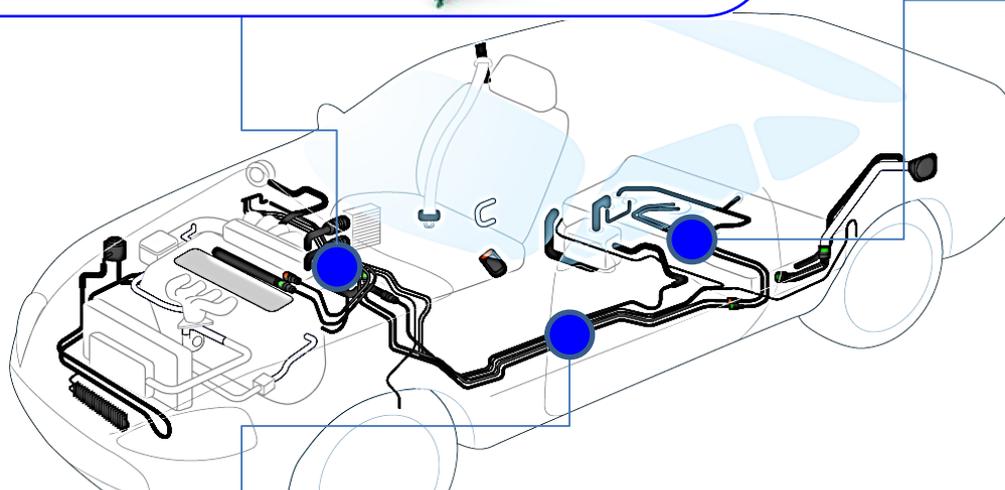
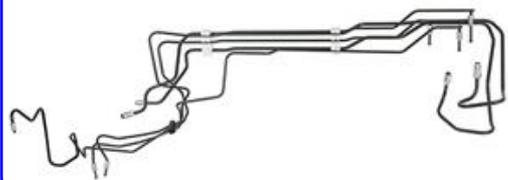
多層樹脂チューブ



コンポジット樹脂
チューブ

ブレーキチューブ

ブレーキバキュームチューブ



集合配管



樹脂燃料配管

クイックコネクター



タンクジャンパー



ベーパーリターンチューブ



ORVRチューブ



フィルターネックチューブ



フューエルインジェクションレール(FIR)

L型



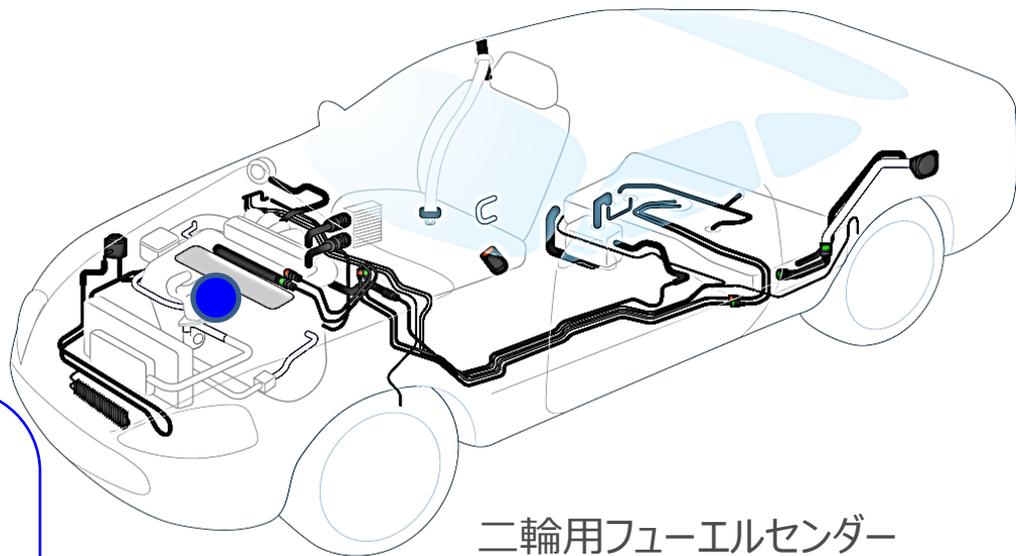
丸型



樹脂タイプ



高圧タイプ



インテークパイプ



ウォーターパイプ



二輪用フューエルセンサー



環境製品

EGRパイプ



エアシャッターガイド

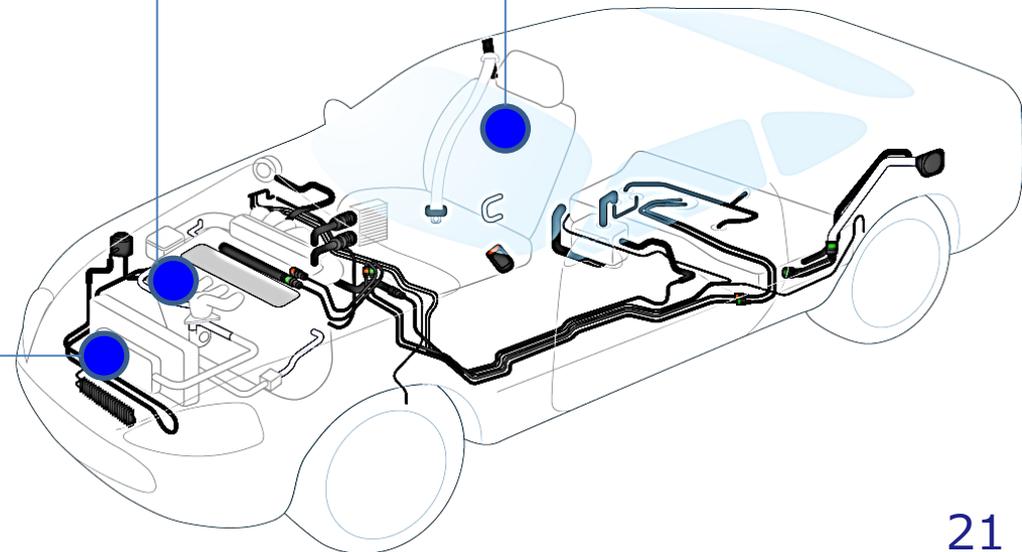


安全製品

プリテンショナーパイプ



バックル、ショルダーアジャスター

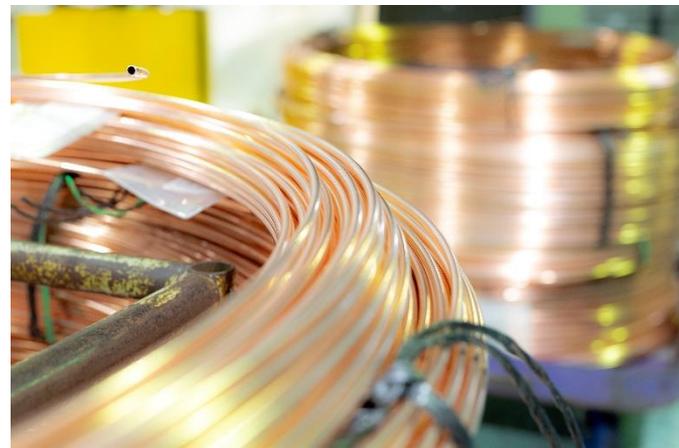


当社の主要製品である集合配管は、①鋼材を引き伸ばし（＝伸線）、②引き伸ばした鋼材を管状に成型し、③管状に成型した鋼材に曲げ加工等を施し、④それら複数の管状に成型した鋼材を組み付けて出荷します。

①鋼材の伸線



②パイプ加工



③曲げ加工

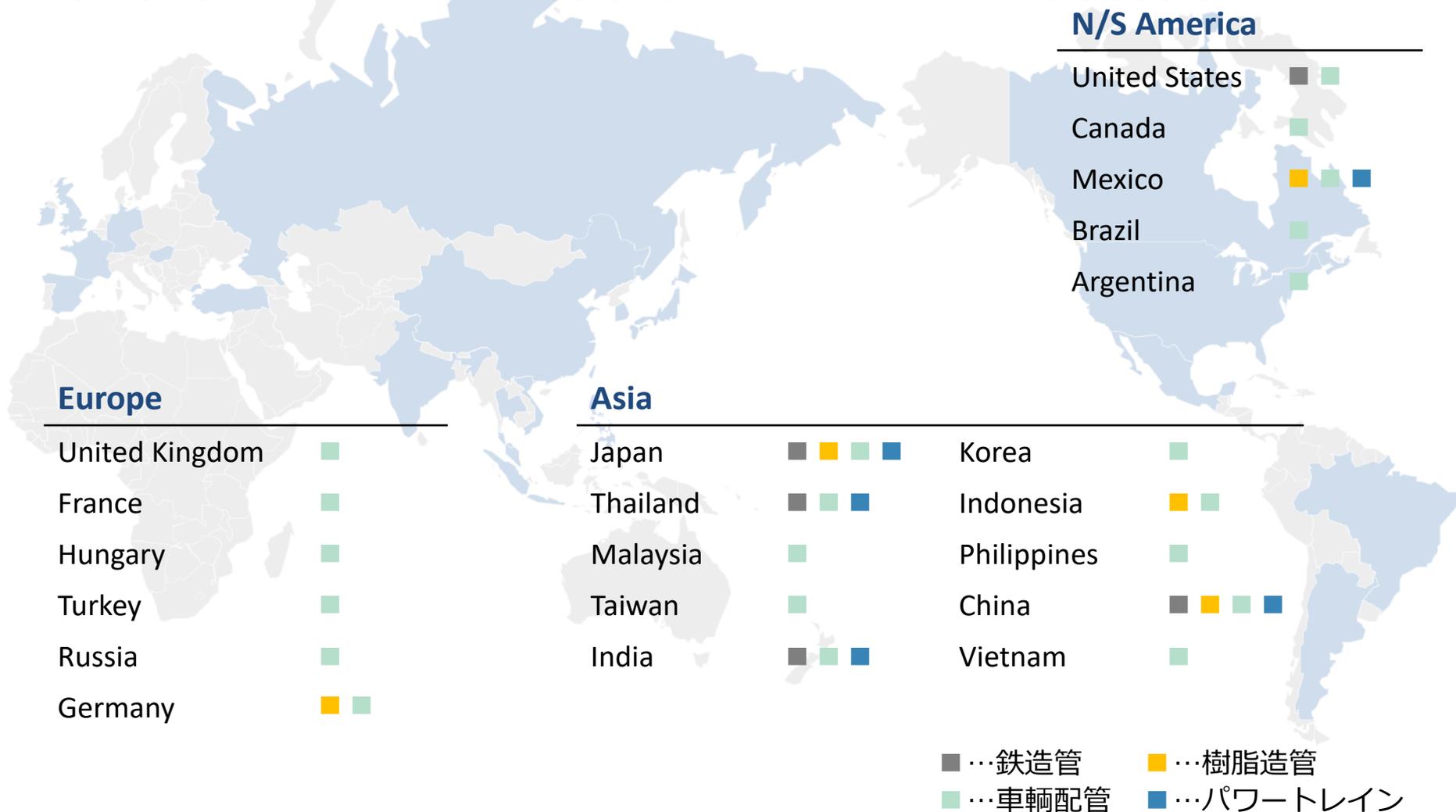


④組付け・出荷





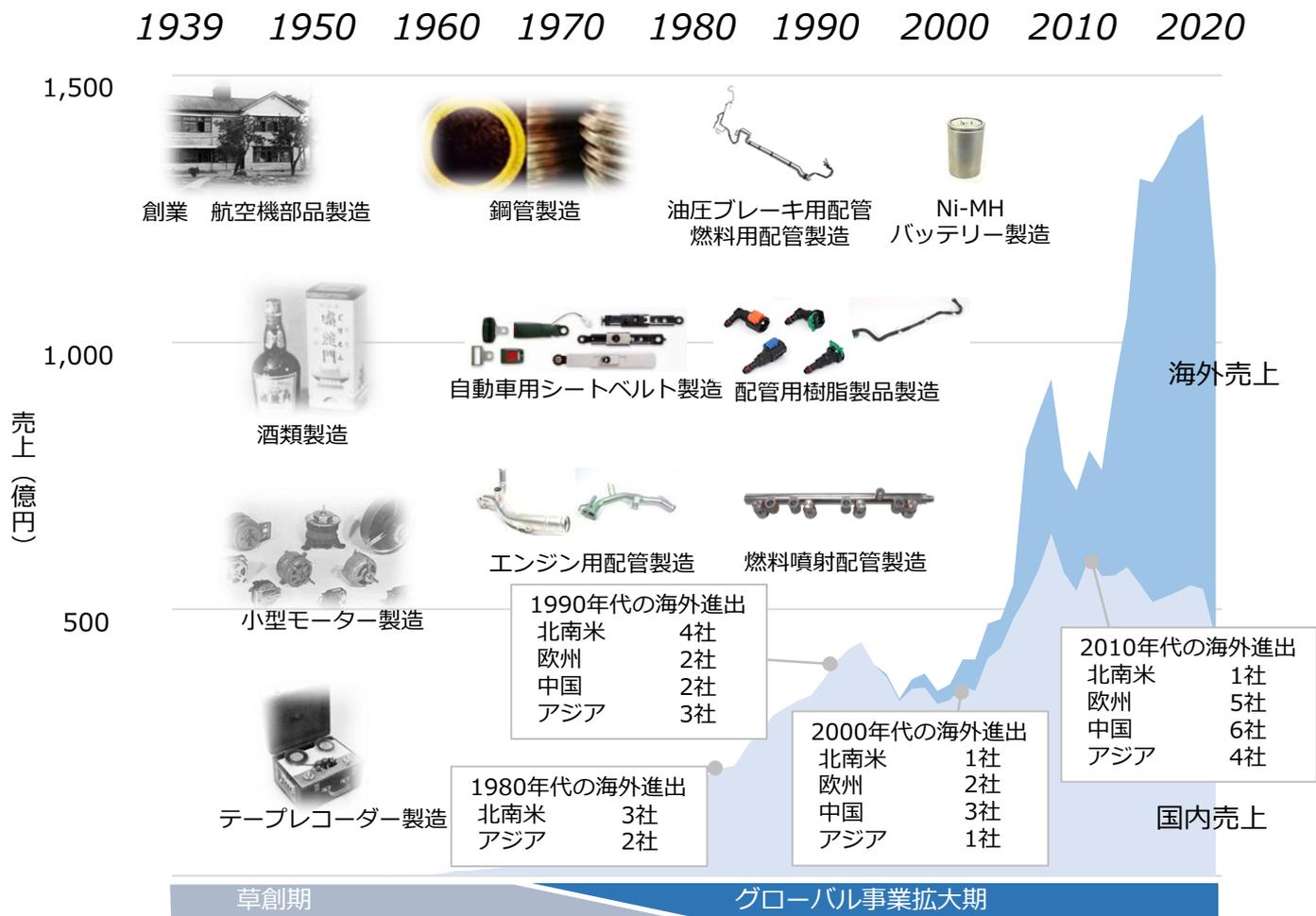
当社の主要製品である集合配管は長物であることから、輸送効率向上のため顧客であるOEMの工場に近接する形で国内外に工場ネットワークを擁しており、それが参入障壁の一つとして寄与しています。



三桜のDNAは自己変革と多様性であり、今後も三桜は革新的な製品・事業を展開し続けてまいります。

連結売上の推移

2022年3月末現在



創業
1939年

19カ国
82拠点

連結従業員総数
8,132名
(単体：1,128名)

このプレゼンテーションで述べられている三櫻工業株式会社の業績予想、計画、事業展開等に関しましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものです。

マクロ経済や当社の関連する業界の動向、新たな技術の進展等によっては、大きく変化する可能性があります。

従いまして、実際の業績等が本プレゼンテーションと異なるリスクや不確実性がありますことをご了承下さい。また、大きな変更がある場合は、その都度発表していく所存です。